

「好き」と「嫌い」

副校長 柏木拓也

本日、高等部を卒業される11名の皆さん、14日、小学部を卒業される8名の皆さん、中学部を卒業される14名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。それぞれの学部の課程を修了し、一人一人がたくさんの大切なことを学んだ時間となったのではないのでしょうか。

また、保護者、ご家族の皆様に、これまで、お子様の健やかな成長を願い、共に喜び、共に笑い、本日の卒業証書授与式を迎えられたことに、心からお祝い申しあげます。

さて、ご覧になられた方も多いと思いますが、映画「こんな夜更けにバナナかよ」で大泉洋さんが演じられた鹿野靖明さんは、本校の卒業生だったことはご存じでしょうか。映画のストーリーは割愛しますが、映画の中では、ボランティアに夜中にバナナを買いにいかせるような、一見わがままで、好き勝手に生きているように見える様子に戸惑いを感じる方もいたと聞いています。しかし、鹿野さんが自由を求めることは、ほかの人が当たり前に思うこととなんら変わりありません。「好きなこと」や「やりたいこと」を当たり前に求めることの正当さを、正当でないとみている人々に対して、問題提起をしている映画にも思えます。

私が教職に就いた時には、すでに「自己選択・自己決定することが大切」と言われていました。本校でも、「自ら考え判断決定する」「意思などを効果的に表現すること」などを大切にしている授業が展開されています。「これが好き」「これがやりたい」だけでなく、「これは嫌い」「これはやりたくない」という気持ちを表現することも、その気持ちを育むことも大切であると改めて感じさせられた映画でした。

高等部卒業生の皆さんは、学校を卒業し社会の中で生活をしていきます。これまで真駒内で培ってきた力を存分に発揮して「イヤ」と言ってください。保護者の皆様は「イヤ」という子どもたちにたくさん振り回されてください。そして、子供たちの成長を実感してください。

小・中学部の皆さんは、それぞれ中学部、高等部に進みます。学校での学びを積み重ね、たくさんの「好き」や「嫌い」を自分のものにしてください。保護者の皆様は、そのたくさんに触れる経験ができるよう支えてください。そして、経験させた分、子供たちの力になることを実感してください。

学ぶことはまだまだ続き、たくさんあります。「好きなこと」も「嫌いなこと」も、「やりたいこと」も「やりたくないこと」も共に見つけていってほしいと願います。

本日は、ご卒業おめでとうございます。